

<b>第5回 羽村市産業振興計画懇談会 会議録</b>	
<b>日 時</b>	令和3年10月22日（金）午後2時～午後4時17分
<b>会 場</b>	羽村市産業福祉センター i ホール
<b>出席者</b>	<p>会長 中庭光彦、副会長 梅津 潔</p> <p>委員 林 聖子(リモート参加)、秋吉勝久、小島昌夫、加藤芳秋、宮川陽一、阿部慎也、池田恒夫、清水亮一、新岡 健、大野英一、芳賀啓一（代理：鈴木）、大谷 聡、山本貴彦、久保田 聡、須崎数正、早野和則、青島利久、福田礼彦、北原耕一</p> <p>事務局 産業環境部長、産業企画課長、産業企画係長、産業振興課長、商工観光係長、農政係長</p>
<b>欠席者</b>	矢部 要、木下智之
<b>議 題</b>	<p>1 会長挨拶</p> <p>2 議事  (1) 各産業分野の現状と課題に関して  (2) 羽村市産業振興計画策定懇談会提言の骨子について</p> <p>3 その他</p>
<b>傍聴者</b>	なし
<b>配布資料</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【資料1】第4回懇談会質疑・意見等取りまとめ（分野間）</li> <li>・【資料2】第3回懇談会質疑・意見等取りまとめ（農業・観光）②</li> <li>・【資料3】第二次羽村市産業振興計画策定の策定にあたって</li> <li>・【資料4】第二次羽村市産業振興計画策定の考え方</li> <li>・都市計画図</li> <li>・中心市街地位置図</li> </ul>
<b>会議の内容</b>	<p><b>傍聴の確認</b></p> <p>（事務局）本日の会議には、傍聴希望者はいないことを報告する。  （会長）傍聴希望者はいないとのことなので、早速、会議を始める。</p> <p><b>1 会長挨拶</b></p> <p>書面の会議が続き、本日は第5回目となる。本懇談会は8回を予定されているが、最終までの期間が短くなってきた。密度の濃い議論をしていきたい。これまで皆様にはブロック毎にご意見を沢山いただいていたが、これからは全体像を作っていく作業になる。全体像につながる内容を意識しながら、できるだけ多くの意見を出していただきたい。</p> <p><b>2 議事</b></p> <p><b>(1) 各産業分野の現状と課題に関して</b></p> <p>（会長）早速議事を進めていく。議事の1「各産業分野の現状と課題に関して」を議題とする。事務局からの説明を求める。  （事務局）【資料1】【資料2】説明</p> <p>また、ここまでに皆様からいただいたご意見について、今回を一つの区切りとして会議録を作成したいと考えている。第2回の会議で議題とした</p>

「工業」「商業」については第2回の会議録に今日までのご意見を記載することとし、第3回の会議録に「農業」「観光」、第4回の会議録に「産業分野間」を記載するという形で会議録を作成させていただく。

(会長) ただいま、事務局から説明があった。この件に関し、委員の皆様にご意見を願います。

(委員) 「中心市街地の位置／区域図」を見ると、羽村駅周辺のみである。小作駅周辺はどうなっているのか、非常に疑問に感じる。夏まつりなどの行事も羽村駅を中心として実施されており、羽村駅周辺は商業施設もあることから人が集まる。偏りが感じられるので、市全体として考えてもらいたい。資料1のNo.10にある「羽村センター駅」は個人の考えであるが、鉄道の駅ではなく、「市の中心となる場所」という意味で考え、意見を出したものだ。

(会長) ありがとうございます。中心市街地活性化が議論されたのは、20年前である。今のご意見は、羽村駅と小作駅を二つの中心地として二つを結んだ形にして全体を考えないといけないのではないかと、範囲を考え直したほうが良いのではないかと、ということで良いか。事務局から補足説明などはあるか。

(事務局) 今回、郵送で事前配布した資料の中の「中心市街地の位置／区域図」について、説明が不足しており申し訳ありません。これは、資料1のNo.12のご意見、「市内の商業地域、工業地域等の用途目的の色分けをした地図」と「中心市街地の範囲」がわかるものを示してほしいというご意見に対する回答として配布したものである。市は、2004年に策定した羽村市中心市街地活性化基本計画においてこの区域図を示しており、今回、事務局で確認したところ、この計画以降に区域の変更をしていないことから、この図をお示しした。今回の産業振興計画策定にあたっては、羽村駅周辺の地域だけを特に集中的に考えていくということではなく、市域全体を捉えて検討していきたいと考えている。以上、補足説明である。

(委員) 羽村センター駅構想には、私も賛成。新駅を作ることは難しいと思うが、鉄道の駅とバスターミナルが離れている町は結構ある。コミュニティバスはむらんの起点は市役所が多かったと思うが、スポーツセンターでも良いと思う。バスターミナルのセンター駅を作ると、もう少し市民の利便性が上がるのではないかと。福生病院と羽村との往復のバスがあると思うが、バスターミナルは必ずしも羽村駅だけにしなくても良く、新たなバスターミナル駅周辺を賑やかにするという考えも良いと思う。

(委員) ありがとうございます。交通インフラの整備にはコストがかかるため、公共交通の整備としてコミュニティバスや乗り合いタクシーを実施するところも多くある。中心市街地の整備の検討にあたって拠点を考えることも良いと思う。

事務局に質問するが、2004年に中心市街地活性化基本計画が策定されて、その後、振興策により成果は出ているのか。

(事務局) 2004年に中心市街地活性化基本計画を策定して以降、市ではそれ以降の長期総合計画等で計画事業として打ち出し、道路の再整備など手

がけているものもある。しかし、現在までにすべてが完了しているものではない。今回の産業振興計画や長期総合計画等の見直しの中で、今後のビジョンを定めて考えていくこととしている。

(会長) 商業関係の委員の方はいかがか。

(委員) 市内商業の状況としては、撤退する店舗が多い中で、最近の出店はマッサージ店や美容院が多い。市内には魚屋はなく、八百屋も少ないような中で、生鮮食品だけでなく買い回り品もスーパーで買うようになっていると思う。

新規出店の店舗や若い人の出店は、飲食業が主流である。「にぎわい」という観点では難しい。

(会長) ありがとうございます。これは皆さんに聞きたいが、では、どうするか。このままでは店舗が無くなって、宅地になっていくと思われる。

(委員) 今のご意見にあったように、商店街という名前がついているところはあるが、商店街の体を成していない。「にぎわい」ということで商工会商業部会でも施策を進めているが、答えがない。最近の新規出店はマッサージや飲食関係が多いが、飲食関係も増えている訳ではなく、減ったり増えたりの状態である。

「羽村」のイメージは、福生や青梅とは明らかに状況が違うように思う。それを特徴として捉え、「羽村らしい」商店街、「羽村らしさ」でまとめたほうが良いのではないか。

(会長) 重ねて聞きたいが、「羽村らしさ」とは、「福生と違う」とはどういったところか。羽村と小作の個店の性格も違う気がする。これは市内経済において、重要ではないかと思う。この計画は「市と一緒に頑張っていきましょう」という計画であるから、皆さんは市にどういった要求をしたいと思っているのか、そこを聞きたい。

(委員) 個店が残っていくための条件をつくっていかなくてはいけない。例えば市内にも小さな八百屋さんがあるが、それがつぶれていくということではなく、大きく発展していくということでもないが、それを残しつつ、点在するスーパーと共存できるようなマッチングやシステムづくり、個店を大事にできるような施策が良いと思う。「まちゼミ」などを通じて「羽村市にこんな店があるよ」ということを広めていく中で、お客さんが来てくれる繋がりが増えていくようなことが良いのかなと思う。

(委員) 近隣にも行きたくなる個店、あそこの店であれを買いたいというような店舗がなく、いろいろ扱っているドラッグストアに行く人が増えていると思う。具体的なことを言わないと、抽象的なことではわからない。

羽村は水がおいしいので、水にロマンを持っている人や水を生かして創業しようとする人に来てもらいたい。もっと若い 30 代位の人たちの意見を聞いた方が良い。

(会長) 確かにその通りですね。では、羽村に立地して創業してもらおうようにするには、具体的にはどうするか。「羽村の立地条件は良い」ことさえ知らないし、「水」と言っても、市は「水」のブランディングを今までしてきたかと言えば、羽村より昭島の方がブランディングしてきている。そこをどうするのか、具体的にしていきたい。

市のブランディングは当然必要で、観光、商業のブランディングが合わせて必要になってくる。総じて言えば町の魅力である。それに工業、農業を組み合わせ、産業的な魅力をどう作るのか。産業に若い人たちが参入してくる魅力をどう作るのか、具体的にどうするのか、という話になると思うが、他の分野ではいかがか。

(委員) 先日、商工会理事会で直近 9 月の報告があったが、新規加入者が 11 件、退会が 4 件だった。思っているほど悲観する状況ではないと思っている。創業者は、大々的ではなく、小規模から事業を始めるケースが多く、耳に入りづらい状況があるのかと思う。金融機関でも、資金需要も思っているほど悪い状況ではなく、新しく借りに来るケースも多いと聞いている。ニーズの掘り起こし。起業に対してのワンストップサービスなどがあれば、有効に働くのかと思う。

(会長) 今の話に絡んで資料 1 を見ると、「連携」という言葉がキーワードで多く出されている。商工会には新しい方が加入しているとのことだが、その方々が緩い連携を組んで相互扶助しながら魅力を作っていくようなことが必要なのではないかと私は考えている。皆さんはどうお考えか。

(委員) 羽村の農業の現状としては、100 名余の農業者がおり、販売農家は、農産物直売所で約 60 名。30ha 位の農地で農業に従事している。皆さんからのご意見は、ありがたい意見がたくさんあった。しかし、資料 4 にある中には現に行っている事業もあり、援農ボランティアや市民農園、農商連携などは以前から行っている。農商連携は随分前から行っているが、なぜ上手くいかないかという、農家はある程度まとまった量を販売したいと考えているが、農産物直売所でも同じ品物を複数の生産者が出荷してしまうと、バッティングして売れ残ってしまう状況である。一方、例えばキャベツを数個、イタリアンレストランに出したりしたこともあったが、毎日毎日、一つのキャベツや、数個の野菜を納品するとなると、そこがネックとなり、何回か機会はあったが継続できなかった。農商連携はなかなか難しい。また、意見の中にあった、近隣の農業高校との交流との件はありがたい。農産物で特産品がほしいとか、商品開発をしてほしいなどと言われるが、農家は現状の生産活動で余力がない。若い学生に商品開発に協力してもらえるような場所や機会があれば、原材料を生産していくことはできると思う。先程の意見にもあったが、若い人の意見を施策に取り入れていくことがこれからは大切だと思う。

(会長) 大事なところである。販売先、卸先を考えていかないといけないと思うが、羽村はどうなっているのか。課題も含めて伺いたい。

(委員) 農業後継者クラブは現在 31 名おり、花や野菜の生産を中心として、チューリップ、田んぼ等、複合的に様々な経営形態がある。卸先はスーパーとの直接契約、学校給食への大量納品、農産物直売所への納品など、それぞれである。今後の課題は、後継者について名産品・特産品の開発など。農家と市が一体となって考えて PR していかないと羽村市の農業はアピールできないと思う。また、農業だけの課題ではないが、人口減少を食い止めるための対策が必要と思う。

(会長) 人口減少が進んでいくと、人口は大都市に集中していく。人口密度

の高い地域の商店街は生きている。市内の人だけが顧客ではないので、人口が多いところに売りに行くということ、例えばコンビニや八王子の道の駅に持っていくなど、新たに考えることがあるかと思う。

(委員) 畑での生産をメインで行っていて感じるが、年々かなりの農地が減っている。要因はほとんどが相続。大規模経営の農業者は、近隣の瑞穂町や入間市で土地を無償貸借、購入して拡大しているが、畑は家に近い方が絶対に効率的である。市内でも生産農家でない畑を貸借できる制度ができたので、この制度がより浸透して、近接する広い面積で生産できれば、生産力は上がると思う。

(委員) 第3回懇談会意見・感想とりまとめ②のNo.9にあるように、安いだけが良い訳ではないという価値観を大事にしたい。安さだけの追求では、利益が生まれず後継者もいなくなる。持続可能な農業となるよう、市に継続的に支援してもらいたい。そうした支援とともに若い人の力を活用していきたい。

(委員) 産業振興計画の会議は前回策定時にも参加しており、2回目となる。前回は思ったが、課題や問題点を列挙し、ダメなところを改善しようとしてもダメ。各産業分野には展望も夢もある。今後の展望や、どうしていきたいのかを聞き、それらについて関係者の意見を聴く機会を持つような、良いところを伸ばす産業振興計画にできないか。

また、「特産品がない」とよく言うけれども、市内には多摩川最上流の水田がある。観光協会で特産品を作ろうと思い、数年前にビールを作った。今はお酒を造っており、2年目となる。特産品を生かして多摩川最上流で作ったお米と羽村の水を使って作っている。少しずつでも特産品を広めていくことによって、農業や商業が認知されればと思い、羽村から情報発信ができればと思って観光事業としてやっている。「特産品を」とよく言われるが、漠然となら言える。飛び抜けたこと、差別化したことをやってみないことには産業は衰退していつてしまう。飛び抜けたところを磨いていくことをしなければ。

(会長) 特化しないとダメだというのは、まさしくその通りだと思う。ただ、一方ではこれが中々できないから困っていて、こうやって集まっているのも事実。協力して特化するしかない。どの方向に舵を振るのかということになるかと思う。

(委員) 各産業分野、団体での展望や魅力についてのビジョンを聞き出してから、それに対して議論していくというような会議なら、産業は伸びるのではないかと思う。リカバリーができる程度の魅力のある部分について、皆でどうしたらいいのかを考える、例えば、羽村に生き残っている約60軒の販売農家の意見に対して、商業はどこまで応援できるのか、工業はどこまでできるかを議論する。そういう場の方が産業にはプラスになるかと思う。

(会長) 「魅力」を作らないといけないということか。

(委員) 工業の分野では、過去には半導体関連や自動車部品、電子機器製造などの企業があり、その周りに協力会社が多く立地していた。しかし、中核の企業が市外に移転してしまうと、それに伴って協力会社もいなくなっ

てしまった。部品の大量製造はできているが、少量多品種製造の事業所ではモノづくりがしづらくなっている。コロナ禍による経済停滞や事業者の高齢化の影響も危惧している。

自社開発の製品は、少なくとも3年、長いと5年と時間をかけて作っている。売れるものは、すぐにはできない。先程の意見にもあったが、続けていくことが必要ではないか。継続できるような体制を考えていきたい。(会長) 広域から見て、競争に勝てるような連携をするには、どうしたら良いのか。アドバイスや意見をお願いしたい。

(委員) 自社・協力先双方での材料の入手困難、価格高騰により、モノ作りが停滞する、また仕掛品が増えるという相談は増えている。資料1に「事業所間連携」「分野間連携」があるが、非常に重要なキーワードだと思う。先程の意見に関しても、「事業所間連携」「分野間連携」「世代間連携」まで踏み込んで議論したい。羽村市単独での解決が難しい場合には、中小企業振興公社、関東経済産業局、TAMA 協会などの支援機関とのタイアップを考えてみてはどうか。

(委員) 先程の「尖らせる部分」についてだが、コロナ禍でも業績に影響がない企業や伸びている企業もある。共通点は、自社の持っているものをずっと磨き続けていることと情報収集。異業種からいかに情報収集していくかということ。「尖らせる」ためには非常に重要。

農業の意見に関してだが、自宅近くで買物ができない、買物に行けない高齢者もいるので、届ける手段や売り方を考えられないか。移動スーパー「とくし丸」は成功事例の一つかと思うが、こちらから売りに行くことによって、良いものを直接消費者に届けることができると思う。また、ふるさと納税の返礼品をきっかけとして、その後に通販で購入するようになるという例もある。売り方や買い方が変わっている、そういったパターンもヒントになるかと思う。

(委員) 市を活性化させるためには新しい種も見つけなくてはいけないが、良い店や良い企業の移転や廃業も見られている。なくなってもらいたくない企業やお店をピックアップして、支援する施策が必要ではないか。良いものを作る店を育てていく、誘致していくということも大事だと思う。

(会長) 多様な意見をありがとうございました。ここでの意見は、事務局で整理してとりまとめる。言い忘れたことや言い足りないことがあれば、後ほど事務局に伝えてもらいたい。この一連の会議録を公開することとなる。事務局は、次回の会議時に今回出た意見の確認をした後、これまでの意見と回答と合わせて公開を進めてほしい。

## (2) 羽村市産業振興計画策定懇談会提言の骨子について

(会長) 続きまして、議事の2「羽村市産業振興計画懇談会 提言の骨子について」を議題とする。事務局からの説明を求める。

(事務局) 【資料3】【資料4】説明

先ほど、課題解決以外に良いところを伸ばすといったご意見をいただいた。事務局では課題を挙げているが、そういった点にもご意見いただきたい。

(会長) 資料 4 を改めてご覧ください。「魅力」を伸ばすには、具体的にどうしたいのかということについて意見をいただきたい。

また、先ほどから「連携」という言葉が出ているが、具体的な魅力を実現するためには、「どんな方向性の施策を行えば、現状の姿から目指す未来の姿になれるのか」、ここにたくさんのご意見をいただきたい。ここがスカスカだと「羽村らしさ」のかけらもなくなってしまう。コロナ禍で変化している世の中において、生き残るためには具体的に何をどうしたらいいのかといったことが必要だと思うので、ぜひご意見をいただきたい。

(委員) アマチュア無線の店舗は、福生市・羽村市・青梅市に各 1 店舗、八王子市に 2 店舗と多摩地域には 5 店舗あるが、ここから秋葉原までは無い。例えばハムショップを題材にして、店舗が無くなるとどんな影響が出るか、存続させるためには具体的にどうしたら良いか、具体的なアイデアを考えてみると、そこから商業振興策の答えが見えてくるかもしれないと思う。また、「連携」ということで、何か必要な技術や製品ができた時に気軽に相談できる、市内の状況に精通している技術センターやものづくりセンターみたいなものがあると面白い取り組みとなり、良いと思う。

(委員) 近年、工場がだいぶ減り、跡地に住宅やマンションが建っている。騒音の問題などで工場が操業しづらい環境になっている中で、企業誘致に一番力を入れてほしいと考えている。企業が立地すれば、人も集まり、建設業や運送業、飲食業など様々な業種に需要が生まれ、雇用や納税などのメリットもある。助成金や補助金、税制優遇などによる企業誘致施策に期待したい。

(委員) 農業に関して、先ほど日本酒の話があったが、ワイナリーをあきる野市に、販売所を羽村に作った方が市内にいる。市内に休眠農地があったら、ワイン用の葡萄を生産できないか。日本酒とワインの二本柱となれば、もっと強くなると思う。

(委員) 昨年度、関東経済産業局で地方移転に関する調査を行い、コロナ禍において、デジタル化が進んでいる企業や情報通信分野の小規模事業所は地方に移転しやすいという調査結果を公表した。調査の中で、多くの自治体が税制や補助金などの企業誘致施策を実施しているが、自治体間であまり支援策に差がない。一方で、調査結果によれば、移転後のアフターフォロー、地元企業との交流などにニーズが見られている。産業振興計画に「連携」というキーワードを盛り込んでもらいたい。

(委員) 課題の部分であるが、資金繰り以外で多い相談は外注先や受注発注のマッチングに関すること。羽村市も企業活動支援員の制度があるので、極力コストはかけずに、アナログな情報や技術、マッチング等々を集約して発信するような仕組みを作れないか。

(会長) 兼業のためのマッチングや資金繰りのニーズもあるかと思うが、何か手立てはあるか。

(委員) 技術を持つ方や、リタイヤしたけどまだ働ける方などを募って企業が採用していくというマッチングの仕組みはできると思う。

(委員) 先ほどの意見にもあった、一括で相談できる場所が良いという話で、例えば、大きな病院には何でも相談できる総合案内窓口がある。羽村

市でも、相談時の情報をまとめて相談者にフィードバックできるような仕組みをつくり、「連携」というキーワードで、現場と市の両方の状況がわかる人が行えると非常にユニークな取組みになるのではないかと思います。

(委員) 農家である自宅で130年使っていた養蚕室を、市内事業者によりリニューアルした。古いものを再生する技術を持つ職人が羽村にいたことが初めてわかった。今後、羽村でも空き家が増加していくと予想される中で、空き家をリニューアルして販売できるような、戸建てを増やさず、農地を減らさずに人口減少の抑制を図る取組みができないか。

また、こうした技術のある職人が市内にいることは、農業や観光をやっているだけではわからなかった。色々な事を考えれば、羽村もまだまだ発信できることがあると思う。注目されないと産業は伸びないと思うので、注目されることを考えてやっていきたい。

(会長) とてもおもしろい話題。全国で伸びている新しい産業は、儲かるからやっているのではなく、おもしろいからやっていて、結果として後から儲かる。非常に大事な話だと思う。

(委員) JAの取組みとして、先ほどから「特産品がない」という話があるが、高糖度野菜のキャベツやニンジンの開発に担当が携わっている。もっとアピールをしていった方が良いかと思う。また、瑞穂農芸高校との連携の話題もあったが、何かにつながればと思い、2年前に当組合から瑞穂農芸高校に乾燥や粉碎などの加工用機械を3点贈呈した。そのほか、組合員の農地のマッチングも行っている。役に立てることがあれば取り組んでいきたい。

また、羽村市の農産物直売所を運営委員会の皆さんと一緒に運営している。農産物直売所では、先ほどから出ているように生産者の高齢化や、同種の作物が一時期に集中する、午後になると商品が無くなってしまふなどの課題も抱えている。皆さんと一緒に考えているところだが、お知恵をいただければ改善していけるのではないかと思います。

(委員) 一つ質問したい。農作物が一時期に大量に重なるということだが、どこかに保管できる設備はないのか。一定期間が過ぎた後で小出しにしていくようなことができれば。品物にもよるが、そういったものがあれば流通もうまくいくのかと思うが、この近辺にはそういった設備はないのか。

(委員) 当組合に保冷库は本店と瑞穂に持っているが、それ程大きなものではない。また、保冷が利く作物とそうでない作物がある。

(委員) 羽村に限らず、東京の農産物の販売先で最も大きなウエイトを占めるのが共同直売所であるが、なぜ直売所が主流になったのかというと、だんだん農家数が減り、生産量も減ってくると市場では戦えなくなってきた一方で、東京には消費者が多くいるので、市場を介さなくても購入者はたくさんいる。そういったところから、市場出荷から直売所出荷への変遷を経て今の状況があると経緯を解釈している。一方で、どの農家も多品目を作っていくかなくてはいけないという問題が同時に発生している。

貯蔵の話が出たが、私は、貯蔵は意味がないと思う。直売所では、取れたての新鮮なものを地元で売るから価値がある。今、産地では暗いうちから収穫して、その日のうちにスーパーに並ぶのは当たり前になってきてい



る。せっかくの羽村の新鮮なものを貯蔵して小出しにすることは、羽村の農業では意味がないと思う。直売所の運営も、現状のままでいくのか、何か特別なものを作って、今までの直売所の歴史からは外れる取り組みをしていくのか、今後考えなくてはいけないと思う。

(会長) 直売所を差別化している例は他であるか。

(委員) 例えば、先ほど話もあったが、日本酒を作っていくとか。野菜はどうだろうか、地ビールは聞いたことがあるが。農家の生産体制はなかなか変わらなくて、加工などに取り組んでいる方もいるが、個人のレベルでやっている方が多い。特産物として認知されるようなレベルの量までやるとすると、ある程度のグループ化をすとか、農業者も大きな意識改革をしていく必要があるし、行政もそれを支援していくというように考え方を変えていかないと難しいと思う。

(会長) そういったブランド化は大事かと思うが、優先順位は高くするべきか。それとも、難しければそこまではする必要はないという考えか。

(委員) 絶対ではないと思う。ただ、選択肢の一つとしては残ると思うし、市として必要なアイテムと思う。

(会長) 今は農産物についてだけだったが、ほかのものについても同様にブランド化はできるか。

(委員) 羽村の 35 万球のチューリップは、もう十数年来になるが、過去に「マンネリ化している」「毎年見に来てもつまらない」「変化がない」などの意見があり、それをどうにかしたいと思っていた。ディズニーランド専務の講演にヒントを得て、変化させることを目指し、まずは配列や配色に工夫を凝らした。来訪者は女性が多いので女性目線を意識して配色を考えたり、山から見たらハムラと読めるように配色を変えたり、イベントを入れてみたりしたところ、色々工夫した成果か、植栽面積は増やしていないのに、最近は「毎回面積が増えているね」と言われるようになった。毎年試行錯誤して、お金をかけずに工夫してやっているが、ゴールはみつからない。メディアの撮影依頼は積極的に受けている。

今年もこれからチューリップ球根の植付があるが、例年、市内のボランティアを募集して植付をしているところへ、今年は JA の農協観光に話題提供して、有料の日帰り援農ツアーとして募集をかけた。そこに人が集まった。全国規模で来てくれるということは、その人が仲間を連れてきてくれたらさらに広がる。いかに市内にお金を落としてもらうかをテーマとして考えている中で、第一歩として農協観光とうまくマッチングできた。

小さな一歩だが、そこから広げたい。注目されないとダメだと思う。

(委員) インターネットで、観光協会が羽村のユニークな観光地図を出しているのを見て、また、今の意見を聞いて、本気で取り組んでいるのだと感心した。皆さんの意見を聞いて感じたこととして、情報の集積があったら良いと思う。農商工観のそれぞれの情報がおおよそのことはわかる、ワンストップで情報が取れる、関係先と連絡が取れるなど、そこに行けば紹介できるコンシェルジュのような仕組み、多種多様な情報が集まる場所があったら良いと思う。

(会長) 最後に、人材と雇用という観点から意見を伺いたい。

(委員) 今の意見の「情報を集約するところ」の中に、「人材不足の会社がどこにある」というような情報があれば、すぐにマッチングや求人をおこなうことができる。最初からテーマとなっている「連携」にもつながると思うので、情報を集約するセンター的なもの、コンシェルジュ的なものは大事だと思う。

(会長) まだ議論が出揃ったとは思わないが、会議時間がオーバーしている。伝えきれなかったことは、後ほど事務局に伝えていただきたい。今回の議論を踏まえて提言案を作成して、次回の会議において再度図ることとしたいが、いかがか。

－異議なし－

(会長) それでは事務局において提言案を作成し次回の会議で配布をお願いいたします。本日予定されていた議事はすべて終了した。円滑な進行にご協力いただきありがとうございました。進行を事務局へ戻します。

### **3 その他**

(事務局) 事務連絡（次回会議日程確認）

追加のご意見はメールや電話などでお知らせいただきたい。

それでは、これで本日の会議は終了とさせていただきます。

長時間にわたりありがとうございました。